

べっかい 議会だより



58

ベテランからロープに浮き玉をつける「技」を受け継ぐ

特集

02-03 これからの保健・福祉・医療
～福祉医療常任委員会報告～

- 06-12 町政のここが聞きたい
一般質問 (木嶋・沓澤・中村・今西・瀧川の5議員)
- 13 常任委員会活動報告 ～総務文教・産業建設～
- 16 シリーズ 志を受け継ぐ ㊦水産従業員 鈴木走志さん



2011.8.1
北海道別海町議会

安心して暮らせるまちづくりを!

新しく常任委員会が構成されました。福祉医療常任委員会（委員6人）が、7月19日と21日に所管事務調査を行いましたので内容を報告します。



特定健診は予防医療の柱です

高齢者保健福祉 計画などの策定

別海町高齢者保健福祉計画と第五期介護保険事業計画の策定が進められています。この計画は、平成二十四年度から三年間の介護保険にかかる保険料やサービスなどの事業内容を定めるものです。

障がい者福祉計画も

第三期別海町障がい

者福祉計画の策定も、

これまでの施策の実施状況・課題を点検し、アンケート調査を行うなどして、地域で自立した生活を送ることができる計画となるよう取り組まれています。両計画の策定を進めるにあたって各策定委員も委嘱されました。これらの計画は、高齢者福祉事業や障がい者を支援するための各種事業量の目標設定となります。

共生型福祉施設

今年度、NPO法人「スワンの家」が共生型福祉施設を建設する計画では、目的も含め概要説明を求めました。この施設は、地域の高齢者や障がい者などの交流活動の拠点施設として利用されます。

福祉牛乳

福祉牛乳の七十歳からの支給については、二十三年度は凍結されましたが、二十四年度からの実施については今後の福祉事業とあわせ調査を進めます。

特養・老健

特別養護老人ホームは、基本構想に基づく建設を進めるため、建設準備室を設けました。老人保健施設「すこやか」の利用状況が減少していますが、早急

に利用のされ方について検討を進めます。ただし、在宅への復帰・生活支援、地域に根ざした施設としての基本は、変わりません。

災害時の援護

災害時要援護者については、地域の自主防災組織と連携して対策が進められています。特別養護老人ホームの施設等については、今後の委員会で調査します。

国民健康保険

次に医療に関する調査について報告します。国民健康保険の二十二年度会計決算については、約五千六百万円の赤字となりました。二十三年度は、法改正により条例の一部を

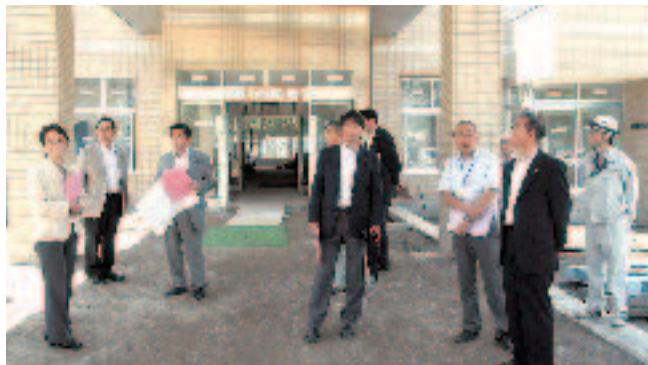


共生型福祉施設の建設工事

改正し、課税限度額を七十三万円から七十七万円にしました。別海町は平成十七年度以降、一人当たりの療養諸費が全道で一番低くなっています。これは、健康に対する町民の意識の高さによるものだと思います。また、特定健診の推進をはじめ、成人生活習慣病などの予防意識の高さが表れています。

特集 これからの保健・福祉・医療

住み慣れた地域の中で



平成24年秋開業予定の新病院を視察する委員

国保会計の 厳しい現状

しかし、国保会計の厳しい状況が続いています。

その原因は、低所得者層が多く加入するという構造的問題をかかえていることにあります。

当町では、十七年度に赤字決算が生じて以来、大変厳しい財政運営が続いています。

新町立病院

本年十月、本工事終了予定の新町立別海病院は、計画どおり工事が進んでいます。本工事後の工事として、道路・駐車場の整備、院内保育所の建設などが計画されています。

新病院の開業については、町民に信頼され、地域に密着した身近で、利用頻度の高い保健医療福祉サービスを提供する病院として、その役割に期待をしています。

中央児童館の 視察調査

七月二十一日、福祉医療常任委員会として、中央児童館の視察調査をしました。

施設の概要は、子育て支援室、多目的ホール、遊戯室、地域交流室、図書室などです。心身の健康増進など

児童館本来の目的に沿った活動を、さらに充実、発展させることはもちろん、地域ボランティアとの協働による運営を行うことも必要と感じました。

福祉医療常任委員会として

結びに福祉医療常任委員会として、これからも所管の事務調査をはじめ、施設の現地調査もあわせて実施します。

また、保健・福祉・医療が連携し、切れ目のないサービスを提供する「地域包括ケアシステム」の構築が図られるよう努めていきます。

委員長	松原政勝
副委員長	西原浩吉
委員	渡邊政信
委員	山田信子
委員	瀧川榮子
委員	木嶋悦寛

議会や議会広報にご意見をお寄せください

議会を傍聴してみませんか

次回の定例議会は9月中旬の予定です。傍聴席は36席あります。4階議場の入口で、住所・氏名・年齢・職業を記入してください。当町議会では、本年度、「議会報告会」の実施を予定しています。皆さんの声を町政や議会に反映させませんか。

議会広報モニターを募集します

『べつかい議会だより』のモニターを募集します。議会だよりに対し、感想や注文、意見を言っただけの方ならどなたでも結構です。期間は平成25年3月まで。一年に一回程度でよろしいので、ご意見ご感想などをお寄せください。

連絡は議会事務局へ

〒086-0205 別海町別海常盤町280番地
TEL 0153-75-2111 FAX 0153-75-0371
ホームページ <http://betsukai.tv> Eメール gikai@betsukai.jp

6月
定例議会
6月21日～24日開催

6月定例議会は、6月21日から4日間の会期で開かれました。審議のようすをお伝えします。

平成23年度 補正予算概要

補正額

予算総額

一般会計（1回目の補正）

3億8,420万円 増

147億9,720万円

国民健康保険特別会計（1回目の補正）

930万円 増

23億4,830万円

介護サービス事業特別会計（1回目の補正）

5,120万円 増

9億4,940万円

■一般会計の主な補正（歳出）

- 辺地共聴施設新設整備事業（地デジ化に伴う難視解消）
1,145万円増額
- 地域会館等整備事業（耐震診断調査3館、外壁改修2館）
870万円増額
- 協働のまちづくり推進事業（公募型・一般型補助）
500万円増額
- 共生型小規模福祉施設等整備事業
（高齢者・障がい者等共生施設建設補助） 5,600万円増額
- 上春別へき地保育園改築事業（実施設計） 779万円増額
- 新規就農者対策事業（新規就農者助成3戸） 900万円増額
- 高性能林業機械購入事業（森林組合：グラッフル購入補助）
417万円増額
- 衛生管理容器導入事業
（野付漁協：鮮度保持ステンレスタンク購入補助） 1,050万円増額
- 起業家支援事業（開業・空き店舗利用等支援） 500万円増額
- 中小企業振興対策事業（宿泊業緊急経済対策事業等） 538万円増額
- 交流センター補修事業
（源泉用送湯ポンプ交換、薪ボイラー導入補助） 1,952万円増額
- 防災行政用監視カメラ導入事業（災害監視用防災カメラ設置）
201万円増額
- 小・中学校建物耐震改修事業
（上風連小廃材撤去、中春別中基本設計・地質調査） 2,107万円増額
- 町営スケートリンクトイレ新設事業 2,150万円増額

■国民健康保険特別会計の主な補正（歳入・歳出）

- 平成22年度の決算見込みに伴う本年度歳入歳出予算の精査
930万円増額

■介護サービス事業特別会計の主な補正（歳出）

- 特別養護老人ホームの sprinkler 設置、屋上防水補修
4,029万円増額

条例を一部
改めました

◆町税条例

東日本大震災の被災者等の負担の軽減を図るため改正された地方税法の特例措置に伴い、雑損控除、および住宅借入金等特別税額控除の適用期限の特例を、条例の附則に加える改正をしました。

◆国民健康保険条例

地方税法の一部が改正されたことに伴い、課税限度額を改めました。

◎基礎課税額の限度額
五十万円→五十一万円

◎後期高齢者支援金等
円

◎課税限度額の合計額
七十三万円→七十七万円

◎課税限度額の一部が改正されたために改正された国民健康保険法施行令の限度額と同額に改正するものです。

課税額の限度額
十三万円→十四万円

◎介護納付金課税額の限度額
十万円→十二万円

◎課税限度額の合計額
七十三万円→七十七万円

当条例に関しては反対・賛成討論があり、採決の結果、賛成多数で可決しました。



進む学校耐震化 今年度基本設計実施の中春別中学校

臨時議会

7月7日開催

国・道に意見書を提出しました

◆住民の安全・安心な暮らしを支える交通運輸行政の充実を求める意見書

提出者 総務文教常任委員会

委員長 佐藤 初雄

当町を含め広大な面積を有する道内自治体住民のくらしにとって、交通と運輸が果たしている役割は極めて重大であり、安全・安心に移動することは国民の基本的な人権のひとつです。

工事請負契約の締結を承認しました

◆町道泉川北4線交付金工事

簡易公募型指名競争入札により、高玉建設

道内では、列車や飛行機の事故やトラブルが相次ぎ安全性が揺らぐ中、国による適切な指導・監督が望まれていることからその交通・

運輸が安全・安心に営まれるように指導・監督する地方運輸局等の充実を求める意見書が提出され、全員の賛成で可決されました。



空の安全安心のため活躍する中標津空港管制塔

工業株式会社が落札しました。

契約金額は、八千八百七十二万五千円で、工期は、平成二十三年十二月二十日までです。

◆中春別へき地保育園改築建築主体工事

簡易公募型指名競争入札により、みどり・島影経常建設共同企業が落札しました。

契約金額は、一億一千五百二十九万円で、工期は、平成二十三年十二月二十日までです。

事務組合・広域連合の議会が開かれました

6月6日、根室北部消防事務組合・中標津町ほか2町葬祭組合・根室北部廃棄物処理広域連合の各議会が、中標津町議会議場において開催されました。

決まったことの概要をお知らせします。

<根室北部消防事務組合>

田中孝幸議員(標津町)を議長に、村山修一議員(羅臼町)を副議長に選出し、戸田憲悦議員(別海町)を監査委員に選出しました。また、186万円を増額する補正予算の専決処分を承認しました。

<中標津町ほか2町葬祭組合>

渡邊政吉議員(別海町)を副議長に、石橋正行議員(標津町)を監査委員に選出しました。

<根室北部廃棄物処理広域連合>

渡邊政吉議員(別海町)を議長に、田中孝幸議員(標津町)を議会運営委員長、村山修一議員(羅臼町)を同副委員長に選出しました。また、広域連合事務管理者に当町の磯田俊夫副町長が、監査委員には坂本志郎議員(羅臼町)が選出されました。

町政の ここが聞きたい

6月定例議会では第2日目(6月22日)に5議員が一般質問をしました。その内容を要約して掲載します。

■木嶋悦寛 議員

- 1 技能士重用制度をどのように進めていきますか …6

■沓澤昌廣 議員

- 1 財政の見える化の取り組みは ……7
- 2 被災者支援システムの導入を ……7

■中村忠士 議員

- 1 学校の耐震化を急いで ……8
- 2 東北の酪農家へ牧草提供などの支援を ……8
- 3 泊ならびに大間原発の運転中止を申し入れるべき …9
- 4 教育委員長としての抱負は ……9

■今西和雄 議員

- 1 協働のまちづくりに対する新たな取り組みは ……10
- 2 TPP交渉に対する決意は ……10
- 3 第六次総合計画の今後の展望は ……11

■瀧川榮子 議員

- 1 自然エネルギー活用発電の補助拡大を ……11
- 2 介護保険の円滑な利用継続を ……12
- 3 老健「すこやか」の方向性は ……12

木嶋議員

**技能士重用制度を
どのように進めていきますか**

産業振興部長

関係機関と協議のうえ

検討してまいります

木嶋悦寛議員

技能士重用制度は、

技能検定に合格した技能士を公共事業で積極的に活用することにより、産業文化の継承、雇用の安定促進を図るものです。

技能士重用制度に対する当町の取り組みと現状は。

土井産業振興部長

町が発注する工事では、仕様書に技能士の活用に努めることを明記し、活用を促しています。

質問

特に建設業に関連する技能士の位置づけを、

どのように考えていますか。

根本建設水道部長

昨年十月に仕様書の改定があり、技能士の活用状況を工事施工成績評価において評価することになりました。これにより、技能士の社会的地位や技術水準の向上に役立つものと考えています。

質問

今後、技能士重用の取り組みをどのように進めていきますか。

土井産業振興部長

今後、当町においても、仕様書に記載されている内容の徹底と、

資格証明書、技能検定合格書、あるいは技能士手帳の写しなどの提出を、関係機関と協議のうえ検討してまいります。

質問

町長は、この技能士の重用制度が中小企業振興策の中でどのような役割を果たしていくと思えますか。

水沼町長

やはり技能を磨いていくということが、その企業の発展につながるものだと思っております。

しっかりとした技術のもとでの信用が、その企業を選ぶという目安になりますので、そういう面からも、我々もしっかりとPR活動を含めて検討してまいります。

沓澤議員

財政の見える化の 取り組みは

総務部長

今年秋から新公会計で 財政状況を公表します

沓澤昌廣議員

町の会計は、長い間、単式簿記・現金主義で行われてきました。

予算の執行状況を明確に把握し、現金収支を厳しく管理することができず、反面、資産・負債のストックがなく、粉飾や赤字隠し、また金利や減価償却、直接・間接の事業実施に必要な費用の情報が欠けています。

一方、複式簿記・発生主義は、現金の増減だけではなく、取引によって発生した原因も記録します。

決算に同方式を導入していないのが日本とドイツだけと言われて

主義へと変えていくべきと思います。

小守総務部長

今年秋から発生主義の活用、および複式簿記の考え方の導入を図り、地方公共団体・関連団体も含む連結ベースでのバランスシート・行政コスト計算書・資金収支計算書・純資産

変動計算書の四表を作成して、発生主義に基づく新公会計により、財政状況の公表を行います。

小守総務部長

※見える化
事業の漠然とした部分を数字などの客観的に判断できる指標で把握する取り組みのこと。

沓澤議員

被災者支援 システムの導入を

総務部長

導入についての検討を 進めていきます

沓澤昌廣議員

三月十一日の東日本大震災は、千年に一度と言われる地震と大津波によって、多くの命と全ての財産を奪っていきましました。

そして、起きてはいけない原子力発電所の

事故です。

当町は酪農の町であり、漁業の町でもあります。

すでに、海拔の低い本別海と走古丹で、防災避難施設が整備されています。

そこで提案ですが、当町でも被災者支援シ

ステムの導入が大切です。

小守総務部長

災害発生時の罹災証明書、支援金や義援金の交付、救済物資の管理などが一元的に行うことができます。

ゼロから開発すると莫大な費用がかかりますが、全国の自治体には無償提供されています。

今後、被災者支援システムの導入を早期に検討すべきと思います。

被災者支援システムの導入については、当町が現在事務執行に利用しているシステム環境において不安要素があります。

しかしながら、災害への対応として、現在使用しているシステム環境の中での導入が可能かどうかを視野に入れ、導入の時期を含めて検討を進めていきます。



東日本大震災の被災地復興支援に町職員も参加

中村議員

学校の耐震化を急いで

教育部長 平成三十年度までに

100%をめざします

中村忠士議員

学校等施設の耐震化計画についてお知らせ下さい。

質問
年度計画は。

大島教育部長

中春別中の建てかえは、来年度に実施設計、平成二十五年から工事に入る予定です。これに五億円ぐらいかかります。

財源的な問題もあります。

計画面度を整理して、平成三十年度までに目標である耐震化率100%達成に向けて整備を進めていきます。

別海小、別海中の体育館については、将来的な建てかえも検討していかなければならないかと考えています。

中西別幼稚園については、耐震診断を実施し、耐震改修が必要かどうか判断します。

町民体育館の耐震改修は今年度予定されていますが、他の避難施設は。

質問

町民体育館の耐震改修は今年度予定されていますが、他の避難施設は。

大島教育部長

中央公民館に替わる施設として生涯学習センターの建設を計画しています。

西公民館については、平成十九年の耐震診断で「耐震性あり」と判定されています。

質問

海岸線と役場以外の避難施設には備蓄品がありません。検討を要するのでは。

小守総務部長

地域の自主防災組織の意見も聞きながら検討を進めていきます。

中村忠士議員

大震災被災地への現時点での支援策は。

小守総務部長

継続している支援策としては、被災者用の受け入れ住宅十五戸確保、仮設住宅の建設可能用地の道への報告、十六か所での募金活動、人的支援として看護師二名、消防隊員二名、町職員一名の派遣をしています。

今後とも総務課防災交通担当を窓口にして、できる限りの対応をしています。

東北の酪農家へ 牧草提供などの支援を

中村議員

町長 最大限の協力をしていきます

きたいと考えています。

質問

東北の酪農家を支援しようとする牧草の提供が、多額の費用がかかります。町として助成を考えてみては。

水沼町長

北海道では今年の牧草提供可能量調査をして、道東あさひ農協管内においては、一番草合わせて二千百個のロールの提供が可能ということですが。

質問

被災酪農家が別海で酪農を継続したい場合、町として積極的受け入れを考えては。

水沼町長

町ホームページを利用した酪農就業情報の掲載などを検討したいと思えます。



今年の牧草収穫も順調に進み、被災地への提供も可能です



エネルギー政策の抜本的見直しが求められています（泊原発）

議員 中村
**泊ならびに大間原発の
運転中止を申し入れるべき**

町長 現在のところ、申し入れることは考えていません

中村忠士議員

福島第一原発から四百kmも離れた静岡のお茶からも基準を超える放射能が検出されています。

泊原発から別海町までは三百七十五km、青森県大間原発からは四

百一kmです。泊や大間原発で放射能漏れが起

こつたら、別海町にも被害が及ぶ可能性があるという事です。

泊・大間原発の廃止を申し入れるべきです。

水沼町長

エネルギー政策は、

国全体で考えていかなければならないものです。道や道町村会と連携してこの問題に対応していきたいと考えています。現在泊・大間原発の廃止の申し入れを行うことは考えていません。

質問

福島県も青森県も独自の調査機関を作ると言っています。北海道も、政府や北電の言うなりでなく、独自調査をする機関を設けるべきとの申し入れはできるのでは。

また、大間も泊もプルトニウムを使うプルスール計画の実施中です。大変危険です。プルスール計画の凍結を申し入れることはできませんか。

水沼町長

プルトニウムの毒性は極めて高いと言われています。また、今回の事故を通じて原子力に対する安全性に対して非常に疑問を持たれているので、当然大きな関心を持って見なければならぬと思います。町村会を含め連携をしながら対応していきたいと考えています。

教育委員長としての抱負は

中村議員

教育委員長 ^{しんしゅ}進取の気概を持った人材育成を

中村忠士議員

教育委員長の抱負を。

大塚教育委員長

教育においては、新しい時代・新しい別海町を積極果敢に築き上げていく進取の気概を持った人材を育成することが求められています。

す。このためには、子どもたち一人一人に困難に立ち向かい解決する力、他者を思いやり自然を大切に作る心、未来を切り拓き次代を生きる力をはぐくんでいくことが何よりも重要です。

質問

国連・子どもの権利委員会の日本政府に対する勧告については。

大塚教育委員長

こうした認識のもと「夢と希望にあふれ、輝きに満ちたふるさとを切り拓く町民を育てる教育」をめざしていきたいと考えています。

質問

教育委員長と教育長の役割と関係性をどう考えていますか。

大塚教育委員長

教育委員会は五人の委員による合議制の執行機関です。この会議を主宰し教育委員会を代表する者が教育委員長であり、教育長は、教育委員会の指揮監督のもと、教育委員会の権限に属する事務全般

質問

ユネスコ特別政府間会議で採択された「教員の地位に関する勧告」について所見を。

大塚教育委員長

「教員の正当な地位、および教育職に対する正当な社会的尊厳が重要性を持つている」となっており、至極もつともな内容で、尊重しなければならぬものと認識しています。

今西議員

協働のまちづくりに対する 新たな取り組みは

町長 まちづくり推進担当と

一般型補助金の新設です

今西和雄議員

町長は就任以来、町政の柱の一つとして協働のまちづくりを提唱してきました。

一期四年間の町政運営の中で、どの程度町民の皆様に浸透しているかと思えますか。

課題とその解決に向けた取り組みをどのように進めていきますか。

水沼町長

自立のまちづくりを目指すため、町民主体による協働のまちづくりを進めることを約束しました。



「協働のまちづくり町民会議」の協議風景

第六次総合計画の策定に向けた町民の皆様への活動も、協働のまちづくりへの理解は徐々に浸透しているものかと判断しています。また、昨年度取り組んだ

別海町自治基本条例の策定にあたって、多くの町民の参画のもとで策定されました。

この条例の策定にかかわりながら協働のまちづくりが、さらに町民に浸透したものと認識しています。

まちづくりとは町内会活動・文化活動・ボランティア活動、また選挙の投票などいろいろな活動を意味しており、いかに多くの町民が自主的に参加していただくか、これが大きな課題だと考えています。

質問

町民が積極的に参画することが本来の目的です。

町長が提唱している協働のまちづくりを達成するために、しっかりと町民の皆様にご伝えていると思いますが、今後の取り組みは。

水沼町長

今年度から、総合政策の中に、まちづくり推進担当を設置する

とともに、補助金の拡充、協働のまちづくりの指針の策定にも取り組みます。

また、公募型補助金のほかに、一般型補助金を新設しました。

TPP交渉に対する決意は

今西議員

町長 オール別海で反対運動を展開します

と思います。

また、当町は日本の一大食糧基地であり、常に自給率向上を国に要請してきました。

今一度、町長の力強い決意をお聞かせください。

水沼町長

当然国民への食糧供給基地として大きな役割を果たしている地域ですし、TPPの問題は、地域経済を含めて当町の運命を左右することにつながります。

まさにオール別海、さらには北海道、そして全国に反対運動を広げるよう努力していきます。

質問

次世代へ豊かな別海



根室管内の農林水産商工関係者が一堂に介したTPP反対集会（中標津町）

町を継いでいく方針が示され、まさに安心・安全そして安定的に食糧を生産する道筋を作ることも使命と考えます。

水沼町長

食糧を含めて、日本に対して大いに貢献できる町として、今後とも発展させていく決意です。

第六次総合計画の今後の展望は

今西議員

町長 行財政改革に取り組みながら進めていきます

先行きの見えない日本経済が続いています。さらに三月に大きな災害に見舞われ、国もその対応に苦慮している状況の中で、第六次総合計画に基づく事業展開も再検討の必要があるのではと考えます

今西和雄議員

が、町長の考え方は。

水沼町長

現在進めている事業の他、多くの財源を必要とする事業が山積しています。

さらに歳出の見直しを図りながら、本当に必要なもの、緊急性、重要性を見極めながら、事務事業を見直すとともに、行財政改革にも取り組みながら進めていきます。

質問

緊急性、重要性の判断の基準は。

水沼町長

第六次総合計画に基づいて、いろいろ検討を重ねながら取り組んでいきます。

瀧川議員

自然エネルギー活用発電の補助拡大を

産業振興部長

地域の特性や自然条件を生かした取り組みを推進します

瀧川榮子議員

福島第一原発事故は、原子力発電の危険性を改めて知らせることになりました。

自然エネルギーの活用はさらに進むと考えます。

住宅用太陽光発電システムの補助の増額が望まれますが、いかがですか。

土井産業振興部長

平成二十一年度より五か年計画で太陽光発電システムの補助事業を行っています。

今年度千四百万円を予算化し、五月末実績で十九件、五百六十六万円で四十%の執行率

する必要がありますが、いかがですか。

土井産業振興部長

地球環境に負荷の少ないエネルギーは、太陽光・水力・風力・地熱・バイオマスなど多岐にわたって存在しますが、地域の特性や自然条件を生かした取り組みの推進が効率的であると考えています。

質問

微力で回る風力発電も実績が上がりが有効利用できるか検証されれば、その方向性を探る必要があると考えますが、いかがですか。

土井産業振興部長

今後、化石燃料に頼らない、いろいろなエネルギー活用方法が出ると想定され、検討していきます。



自然エネルギー活用を本格的に考えるときです

介護保険の円滑な利用継続を

瀧川議員

瀧川榮子議員

介護保険法の改定により、介護保険を利用していた要支援一・二の方を、保険給付外の介護予防・日常生活支援総合事業に移すことが、自治体の判断によりできることになりました。

福祉部長 利用者にとって最善のサービスとなるよう考えています

サービスの利用範囲が後退すると考えますがいかがですか。

田村福祉部長

介護保険法の一部改正による施行は、平成二十四年四月一日からです。法改正の中で利用者の意思を最大限に尊重するよう付帯決議がついています。

ニーズ調査を行い、利用者にとって最善のサービスとなるよう考えています。

質問

保険給付の対象外となった時、専門家によるサービスを受けられないことになりませんか。

田村福祉部長

町と契約を結んだ専門性のあるサービス提供が実施します。ボランティア的な人が見ることはならないと考えています。

質問

要支援の方は、今まで訪問看護、通所リハビリ、デイサービス、短期入所、住宅改修などが使えました。総合事業へ移行していきますか。

田村福祉部長

総合事業について、町として導入するか否かを含め、ニーズ調査を行い、策定委員会とも話し合い、給付計画を作っていきます。

質問

要支援は自立ではありません。高齢者が安心して住み続けるために継続したサービスが必要と考えます。

水沼町長

高齢者が、住み慣れた町で、元気で健康に暮らしていける計画になるよう努めていきます。

瀧川議員

老健「すこやか」の方向性は

福祉部長 在宅支援するのが施設の目的です

瀧川議員

老健施設は本来、リハビリテーションや医療行為により、早期の

身体機能の回復を目指す施設です。

期間三か月ルールはありますが、自宅での療養の難しさなどから、

本来の使われ方ではない利用もあり、看取りをする施設もあると聞きます。

田村福祉部長

老人保健施設は、施設と住宅の架け橋で、リハビリがメインです。医療的な見地から、「リハビリが足りない、もう少しの延長を」などの考え方で判定をしています。

在宅への復帰、生活支援、地域に根差した施設として目標を立てています。

看取りは「すこやか」ではやっていません。

たくさんの方が利用し、在宅支援するのが施設の目的であり、利用率が少ないからたくさん入れるということはありません。



リハビリに励む町民の方々



急傾斜避難路を視察する委員

総務文教常任委員会と産業建設常任委員会が活動を開始しました。活動内容をお知らせします。

総務文教 常任委員会

委員長	佐藤初雄
副委員長	丹羽勝夫
委員	安田輝男
委員	戸田憲悦
委員	今西和雄
委員	森本一夫

町税の収入状況 (平成二十二年度)

国保税は八八・二二％(〇・六八％増)、普通税は九五・四％(〇・一％減)です。うち、法人税・固定資産税・軽自動車税の三税が低下し、経済状況が厳しい中で、困難な状況が予測されます。

滞納整理機構への引継ぎ額は、四千五百六十四万円で、うち、千六百六十六万(三六・五％)の収納実績報告があります。

平成二十三年度 補正予算

主なもの

△総務部関係▽

辺地共聴施設新設、地域会館整備、協働のまちづくり推進事業、コミュニティ助成、バス停移転、友好都市サミット、防災行政監視カメラ導入。

△教育委員会関係▽

小・中学校耐震化改修、ファミリースポーツハウス整備、町営スケートリンクのトイレ新設等。

また、教育に関する事務の点検および評価報告書の概要説明がありました。

今後、必要に応じ事務調査、現地調査を行います。

条例の一部改正

町税、国保税にかかるとる案件の内容について調査しました。

所管事務調査

七月二十一日、地域

産業建設 常任委員会

委員長	小林敏之
副委員長	杏澤昌廣
委員	中村忠士
委員	戸田博義
委員	安部政博
委員	松壽孝雄

別海町の基幹産業は酪農と漁業です。別海町の草地面積は六万三千ha、約八百戸の農家で牛の数は十二万頭、生乳生産量は四十八万七で、日本でも有数の酪農地帯です。

一方、漁業は海岸延長百kmにおよび豊かな漁場を持ち、サケ・マス・ホタテ・エビ・ホッキ・アサリが水揚げされています。江戸時代の徳川家に西別川

で取れたサケが献上されたことから「献上鮭」として有名です。そのほかにも、観光、林業、商工業があります。別海町の地域性を生かした積極的な取り組みと宣伝が大切です。

町道の延長は一千二百kmです。今日の酪農の発展は道路網の整備によつて築かれたとも言つても過言ではないと思います。

大型のタンクローリーなどが通るため、今後、新設される道路もありませんが、維持・補修の事業が重要となります。

当常任委員会が所管する事務の課題は多岐にわたります。今後、所管事務調査を積極的に行い、委員全員で協議して、改善策の究明などに努めます。

皆で知恵を出し合いながら、別海町の活性化のために頑張っていく覚悟です。



広大な草地に恵まれた別海酪農

議会のうごき



グリーンツーリズムの進めかたを学びました

グリーンツーリズムの先進地に学ぶ 長沼町を行政視察 (7月4日)

七月四日、小雨に煙る別海町を朝七時三十分出発。

午後三時前、目的地長沼町に到着。畑作、水田中心の農業地帯とあって、景観も酪農地帯とまた一味も二味も違つたはずまいが…。

山科隆男産業振興課長、駒谷広栄議会議長などから、グリーンツーリズムの取り組みや現状について説明を受けました。

農家戸数七百五十三戸のうち、二百四戸が受け入れ登録されているとのこと。また、昨年度は四千五百六十六人受け入れたそうです。

現況の体制では限度の人数とのこと。行政が中心で進めている事業ではなく、携わる農家をサポートする立場でかわることに大きな意味合いがあると思ひました。個々には多くの課題もあると聞きましたが、グリーンツーリズム運営協議会が中心となり、話し合い、理解し合いながら進めている姿がしっかりと伝わってきた。

酪農中心の農業形態の中で、長沼町と同じような対応はできないまでも、すでに取り組んでいる方も話し合いをしながら、前向きに考えていくべきと感じました。

(今西和雄議員)

震災復興と今後の政治 全道町村議員研修会

(7月5日 札幌)



全道各地から1600人を超える町村議員が参加

会場となったコンベンションセンター大ホールは、道内各地から参加した千六百五十人の町村議会議員で埋め尽くされました。別海町も議員十八人全員が参加し、貴重な時間を共有しました。

萬和男会長の挨拶に引き続き、テレビ番組「時事放談」の司会者としても活躍の政治学者御厨貴氏が、今後の政治の行方と題して講演され、震災復興構想会議議長代理としての話を交えながら、現政

権に危機感を持つていることや、政界が新たな形で再編されることなどを語られました。

もう一人の講師である経済評論家の内橋克人氏は、震災関連死が起こっている現状から今は、まず国家による公的支援により被災者の生存権をしっかりと確保することが大事であると述べられました。

また、多国籍企業によって利益移転が行われ、国内の生産力や雇用力の低下を招いていることが指摘されました。

両氏は、これから大きな変革のうねりが起きると予測されました。

今回の研修で、我々議員は地域住民の命を守るために、しっかりとしたコミュニケーションを作り上げ、次代を担う人や制度を育てていくことが大切であることを学びました。

(木嶋悦寛議員)



表彰状とともに 新旧の議会広報委員

『べつかい議会だより』 議会広報コンクールで入選

第31回全道町村議会広報コンクールにおいて、当町議会広報『べつかい議会だより』55号が入選となりました。

本年度のコンクールには、議会広報を単独発行している117町村から23町村が参加しました。

特選の荣誉に輝いたのは音更町の議会広報でした。

審査員の広報プランナー和田氏は、「これが議会広報かと思わせるようなフロントページ（表紙）のつくりだ」と高く評価しています。

入選となった当町議会広報に対しては、「明るく、きれいで、読みやすい紙面であり、本文活字のサイズ、カラー印刷、周囲のホワイトスペースのバランスが良い。」という評価でした。

『べつかい議会だより』は、過去にも特選2回、入選に1回選ばれており、今回で4回目の受賞となります。

さらに読みやすく、そして、町民の皆様にとって身近で親しみの持てる広報づくりに努力していきたいと、決意を新たにしているところです。

議員の責任の重さをかみしめながら 新任議員研修会

（7月11日 釧路）

七月十一日、釧路で開催された北海道町村議会議長会主催の新任議員研修会に、地元を始め十勝・オホーツク地区から八十八人の新任議員が出席しました。地元からの歓迎の挨拶があり、その後、議長会の勢旗事務局長による講演が行われまし

た。まず、選挙により議員になった責任の重さについて話がされ、議員とは何をするのか、また、議会の行うべきことなど、初歩から一つ一つ丁寧に説明していただきました。中でも、町民の代表として行政の独走を監

視し、また、行政とともに町民がより生活しやすい環境を作り上げること、町民の声を行政に反映させることなどの説明に、皆真剣に聞き入っていました。ひと通りの説明が終了したあと、質疑応答の時間がとられました。当初の予定時間を過

ぎても質問が続いたため、一時閉会とし、その後直接講師と質疑応答することになるほどでした。今回の研修で感じたことは、議員としていろいろなことに責任がある、そのために何をしたら良いのか、自分なりに勉強しなければいけない。また、今日のこの思いを、時が過ぎても忘れないようにし、町民の代表として



議員のあるべき姿について根本から学習しました

一生懸命がんばるつもりです。
（森本一夫議員）

志を 受け継ぐ

～期待と不安が…でも精一杯がんばります～

◎水産従業員（本別海） 鈴木 走志そうし



浜の男衆が揃いました（右端の青年が鈴木走志さん）

昨年の秋に、鹿部の漁業研修所を修了し、家業の漁業後継者としてホタテ漁業・サケ定置網漁業に従事しています。

ホタテ漁業は六月で終了し、七月からは、父も働く丸二水産で新米従業員としてお世話になっています。

サケ定置網漁は、覚えることがたくさんありすぎて大変ですが、先輩方の仕事を見たり聞いたりして、一日でも早く戦力になれるように頑張っています。

また、今年から入部した別海漁業協同組合青年部は、年々人数も減少していて、今は十九人しかいませんが、青年部長を中心に、もつと漁業を身近に感じてもらうために、青空魚市場や小学校などでの出前授業などの活動をし、盛り上げています。

この青年部活動も含め、何をするにも初めてで、この先期待と不安が入り混じっていますが、精一杯がんばっていきます。

編集後記



一字一字、一行一行大事に、広報委員の一人として取り組んできましたが、どうだったでしょう。

いろいろなことを伝える手段として、話す・書く、さらには身振り・手振り、映像で、最近はメールで…等々。

アナログ人間の私は、鉛筆を片手に、原稿用紙に向かう、至ってシンプルな仕事ですが、これが大変な作業でした。

しかし、伝えたい情景、想いを鉛筆を走らせながら織り込みました。

町民の皆様の率直な声を聞かせていただきながら、今後ともしっかりと責務を果たしていきます。

（今西委員）

高校生のとき、新聞部に所属していました。しかし、描いていたのはイラストや漫画ばかり。学校新聞は、制約が多く、編集自体はつまらなかったため、自分たちの主義や主張を、日の目を見ない漫画に託していたわけです。それが実に楽しかった。

そんな懐かしいことを思い出しながらの編集作業。町民と行政をつなぐ大切なパイプ役の議会広報。いつまでも、あのころのワクワクを忘れないで携わってきたいと思います。

（木嶋委員）

がんばれ東北・関東！ がんばろう日本！ 震災からの復興をみんなの力で！！